



〔写真説明〕

重要文化財

二月堂本尊観音像光背<部分>(東大寺蔵)

銅造 鍍金 縦226.5cm 奈良時代

お水取りの本尊・銅造十一面観音菩薩立像の光背は、寛文七年(1667)の火災により焼損したのを取り出され、おおよその形を残して今に伝わっている。本図は、光背中央の千手観音に宝相華を捧げる菩薩である。菩薩の千手観音を見上げる表情には、観音への絶対の信頼感から来る安らかな気持ちを感じることができよう。

(特別陳列「東大寺二月堂とお水取り」より)

特別陳列

「経塚出土陶磁展3

関東・北陸地方に埋納されたやきもの」

1月4日(土)～2月3日(月) 新館

月曜日休館 ただし2月3日(月)は開館

特別陳列

「東大寺二月堂とお水取り」

2月18日(火)～3月16日(日) 新館

月曜日休館

平常展

「仏教美術の名品」

1月4日(土)～ 新館

月曜日休館

ただし2月3日(月)は開館

開館時間

午前9時～午後4時30分

(入館は午後4時まで)

特別陳列

「経塚出土陶磁展3 関東・北陸地方に埋納されたやきもの」

1月4日(土)～2月3日(月) 新館

経塚は、平安時代の中ごろから人びとの心をとらえた末法思想に基づき、仏法の衰滅を恐れて經典を書写して、弥勒仏が出世するまでの間、地中に埋納し、保存しようとした仏教遺跡で、11世紀以降からその造営が行われました。経塚に埋納された遺品は、書写された經典を主体としますが、またそれらを納める容器としての経筒や、さらにそれを保護する陶製の外容器などにもさまざまな工夫と荘厳が施されています。

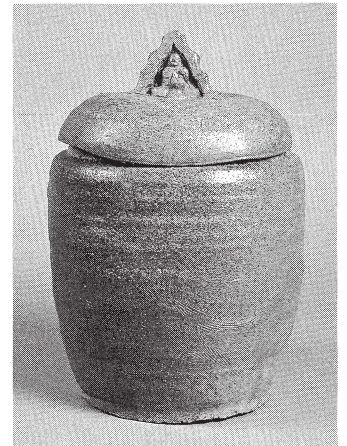
今回の特別陳列は、平成7年の「経塚出土陶磁展 畿内に埋納されたやきもの」と同8年の「経塚出土陶磁展2 中部地方に埋納されたやきもの」に続く3回目の企画で、関東地方と福井・石川・富山三県の北陸地方出土の平安時代から鎌倉時代前後の陶製の経容器類に焦点を合せ、年代の明らかな作例とそれに準ずる重要な遺物、および関連する經典や経筒などを集め、それらの陶器類の地域の特徴や変遷を紹介するものです。

〈主な出陳品〉

《神奈川》観音寺経塚出土品〈平安〉(観音寺)、幣山経塚出土品〈平安〉、八菅神社経塚出土品〈平安～鎌倉〉(八菅神社)《東京》大丸城経塚出土品〈鎌倉〉、落合経塚出土品〈鎌倉〉(以上東京都埋蔵文化財センター)、白山神社経塚出土品〈平安〉(東京国立博物館)(白山神社)《埼玉》大山経塚出土品〈平安〉、利仁神社経塚出土品〈鎌倉〉、妻沼経塚出土品〈平安〉(以上東京国立博物館)《千葉》旭ノ森経塚出土品〈室町〉(清澄寺)《茨城》東城寺経塚出土品〈平安〉(東京国立博物館)、門毛経塚出土品〈平安〉(茨城県立歴史館)《写真》《富山》日石寺裏山経塚出土品〈平安〉(富山県埋蔵文化財センター)《石川》長滝経塚出土品〈平安〉(辰口町立博物館)、伝能登半島出土仏像鈕蓋付経筒外容器〈平安〉《写真》、伝能登半島出土樹文蓋付経筒外容器〈平安〉(以上愛知県陶磁資料館)《福井》深山寺経塚出土品〈平安〉(敦賀市立博物館)、光山山経塚出土品〈平安〉(武生市安養寺区)、江波経塚出土品〈平安〉(福井県立博物館)、下黒谷観音堂経塚出土品〈平安〉(東京国立博物館)



大壺〈茨城県門毛経塚出土〉
(茨城県立歴史館)



伝能登半島出土仏像鈕蓋付経筒外容器
(愛知県陶磁資料館)

特別陳列「東大寺二月堂とお水取り」

2月18日(火)～3月16日(日) 新館

「お水取り」は正しくは「修しゆ二に会かい」といい、二月堂の本尊である十一面観音に悔過をする行法です。悔過とは仏に過あやまちを悔くいまうことで、奈良時代には、悔過し、その功德によって除災招福を祈る悔過の法会が盛んに行われました。東大寺二月堂の修二会は、2月20日の別火入りから3月15日の満まん行ぎやうにいたる長期の行法で、実忠和尚によって天平勝宝4年(752)に始められたといわれています。そしてそれ以後、千二百年以上の長い間、「不退ふたいの行法」として、一度も休むことなく、今日まで続けられてきました。

この特別陳列は、二月堂と「お水取り」に関係のある彫刻・絵画・書跡・工芸品・考古遺品を集めたもので、奈良に春を呼ぶ伝統行事「お水取り」に対して、さらに理解を深めていただけるものと思います。

〈主な出陳品〉

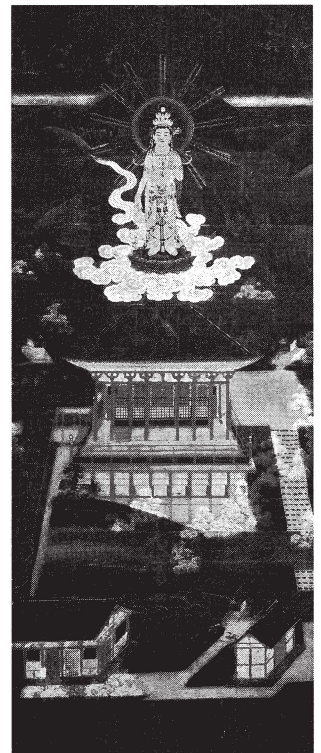
【彫刻】◎銅造舟形光背(東大寺/旧二月堂本尊付属)、木造実忠和尚坐像(東大寺/開山堂)、◎木造十一面観音立像(東大寺/旧二月堂)、二月堂本尊天衣断片(東大寺)、二月堂本尊光背拓本(東大寺)

【絵画】二月堂縁起絵巻(東大寺)、二月堂縁起絵巻断簡(東大寺)、二月堂曼荼羅(東大寺)《写真》、二月堂お水取り絵巻、十一面抄、東大寺縁起(東大寺)

【書跡】紺紙銀字華嚴經〈二月堂焼経〉(当館)、二月堂修中過去帳(東大寺)、◎二月堂修二会記録文書(東大寺)

【工芸】金銅柄香炉、◎香水杓、◎鏡堂司鈴、◎銅鉢、香水壺、二月堂練行衆盤(以上東大寺)

【考古】鬼瓦、緑釉軒平瓦片、水波文二彩埴片、墨書土器、貨銭(以上東大寺)、水波文緑釉埴



二月堂曼荼羅 (東大寺)

平常展「仏教美術の名品」

1月4日(土)～ 新館

当館では、わが国の仏教美術に関する多くの文化財を収蔵・保管していますが、平常展ではそうした館蔵品・寄託品の中から、国宝・重要文化財を含む多数の仏教関係の優品を展示します。

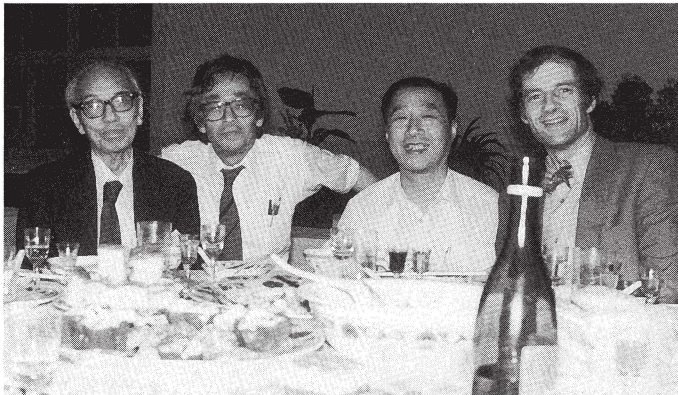
主な展示品（平常展「仏教美術の名品」）

新		館		考					
彫 刻		絵 画		工 芸					
<p>＜1月4日(土)～ ＞</p> <p>◎銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、◎銅造誕生釈迦仏立像(悟真寺)、●銅造誕生釈迦仏立像・灌仏盤(東大寺)、◎銅造薬師如来立像(般若寺)、◎木造弥勒菩薩坐像(東大寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(安楽寿院)、木造大日如来坐像(元興寺町)、木造阿弥陀如来立像、木造阿弥陀三尊像(峰定寺)、◎銅造観音菩薩立像(法起寺)、◎銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、◎木造勢至菩薩立像<六観音のうち>(法隆寺)、◎木造菩薩立像(金竜寺)、◎木造十一面観音立像(松尾寺)、◎木造准胝観音立像(常盤山文庫)、◎木造馬頭観音立像(浄瑠璃寺)、◎木造地藏菩薩立像(東大寺)、◎木造地藏菩薩立像(春覚寺)、◎木造不動明王坐像(園城寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院)、銅造不動明王立像(天ヶ瀬組)、◎木造十二神将立像(室生寺)<写真>、木造大黒天立像(西大寺)、◎木造伎楽面(東大寺)、◎木造舞楽面(手向山神社・東大寺・春日大社)</p>		<p>＜1月4日(土)～2月9日(日)></p> <p>●俱舍曼荼羅(東大寺)、●天台高僧像(一乗寺)、●信貴山縁起<尼公巻>(朝護孫子寺)<写真>、●華嚴五十五所絵巻(東大寺)、●両界曼荼羅<胎藏界>(子島寺)、◎五大尊像(来振寺)、◎板絵神像(薬師寺)</p>  <p>●信貴山縁起 <尼公巻> (朝護孫子寺)</p> <p>＜2月11日(火)～3月9日(日)></p> <p>◎八相涅槃図及び涅槃講式(剣神社)<写真>、◎涅槃図(浄土寺)、◎釈迦八相図(大福田寺)、◎十六羅漢図(長寿寺)、◎津田天神縁起(津田天満神社)、天神像(長谷寺)、天神像、◎両界曼荼羅(正智院)、◎五大虚空蔵菩薩像(大覚寺)、◎毘沙門天像(知恩院)、◎聖徳太子絵伝(橘寺)</p>  <p>◎八相涅槃図(剣神社)</p> <p>＜3月11日(火)～ ＞</p> <p>◎華嚴海会善知識曼荼羅(東大寺)、◎華嚴海会善知識曼荼羅(園城寺)、◎阿弥陀来迎図(心蓮社)、◎阿弥陀聖衆来迎図(松尾寺)、◎阿弥陀来迎図(西教寺)、◎金字法華経宝塔曼荼羅(談山神社)、◎金字法華経宝塔曼荼羅(立本寺)、◎両界曼荼羅(長谷寺)、両界曼荼羅(西大寺)、◎法華曼荼羅(松尾寺)、法華曼荼羅(下部神社)、◎不動明王二童子像(瑠璃寺)、◎愛染明王像、◎閻魔天曼荼羅(園城寺)、◎閻魔王図(長泉寺)、◎五百羅漢図(大徳寺)</p>		<p>書 跡</p>  <p>●賢愚経 <大聖武>(東大寺)</p> <p>＜1月4日(土)～2月9日(日)></p> <p>◎大般若経巻第二百六十四<長屋王願経>(瑞光寺)、瑜伽師地論巻第十六<五月一日経>、◎雑阿含経巻第三十九<五月十一日経>(金剛峯寺)、称讃浄土経(中之坊)、●賢愚経<大聖武>(東大寺)<写真>、◎増一阿含経巻第三十<善光朱印経>(正暦寺)、●大毘盧舍那成佛神变加持経<吉備由利願経>(西大寺)、◎大般若経<魚養経>(薬師寺)</p>  <p>◎聖徳太子伝暦(本願寺)</p> <p>＜2月11日(火)～3月9日(日)></p> <p>●円珍度縁井公験(園城寺)、●伝燈大法師位位記<綾本>(園城寺)、●福州温州台州求法目録(園城寺)、●太政官給公験牒<先本>(園城寺)、◎聖徳太子伝暦(本願寺)<写真>、弘法大師二十五箇条遣告(能満院)、◎慈覚大師伝(三千院)</p> <p>＜3月11日(火)～ ＞</p> <p>◎羯磨(東大寺)、◎弥沙塞羯磨本(東大寺)、須真天子経(東大寺)、◎紺紙金字大威徳陀羅尼経(乗法寺)、◎大般若経<長屋王願経>(見性庵)、◎大般若経(七寺)、大般若経(海住山寺)、大般若経(長久寺)</p>		<p>工 芸</p> <p>＜1月4日(土)～2月9日(日)></p> <p>◎金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、●金銅透彫舍利容器及内容器(西大寺)、山王曼荼羅彩絵舍利厨子(聖衆来迎寺)、宝篋印塔嵌装舍利厨子(福田寺)、◎金銅宝相華文透彫経筒(万徳寺)、●金銅迦陵頻伽文華鬘(中尊寺金色院)、◎金銅尾長鳥文透彫華鬘(細見美術財団)、◎金銅蓮華文透彫華鬘(神照寺)、●金銅宝相華文透彫華籠(神照寺)、◎紙胎彩色華籠(万徳寺)、金銅柄香炉(高山寺)、◎宝相華文如意(当館)、王子形水瓶(当館)、◎香水壺(法隆寺)、●金銅密教法具(厳島神社)、◎銅鐃(円福寺)、◎金銅独鈷鈴、◎金銅三鈷鈴、◎金銅宝珠鈴、◎金銅五鈷四天王鈴(弥谷寺)、◎金銅五鈷三昧耶鈴(金峯山寺)、◎十二尊鏡像(細見美術財団)、◎阿弥陀如来鏡像、◎山王十社懸仏、聖観音懸仏(以上当館)、◎熊野十二尊懸仏、◎金銅千体阿弥陀懸仏(以上細見美術財団)、刺繍両界曼荼羅(太山寺)</p> <p>＜2月11日(火)～3月9日(日)></p> <p>◎両界曼荼羅厨子(当館)、◎金銅宝相華唐草文経筒(施福寺)、◎神護寺経帙(細見美術財団)、三脚卓(当館)、◎銅草花孔雀文磬、●金銅迦陵頻伽文華鬘(中尊寺金色院)、◎金銅種子華鬘(当館)、◎金銅蓮華文透彫華鬘(神照寺)、●金銅宝相華文透彫華籠(神照寺)、◎黒漆金銅装戒体箱(金剛寺)、金銅装鳥宝相華唐草文説相箱、◎五獅子如意(東大寺)、王子形水瓶及び承盤(当館)、仙蓋形水瓶(当館)、◎香水壺(法隆寺)、◎銅仏餉鉢(金剛峯寺)、◎銅仏餉鉢(都々子別神社)、●金銅密教法具(厳島神社)、◎金銅五鈷四天王鈴(弥谷寺)、◎金銅種子五鈷鈴、金銅五鈷三昧耶鈴、◎十二尊鏡像(以上細見美術財団)、◎銅造十一面観音懸仏(長谷寺)、刺繍阿弥陀三尊来迎図(中宮寺)</p>  <p>◎諸尊彩絵法華経厨子(清凉院)</p> <p>＜3月11日(火)～ ＞</p> <p>火焰宝珠嵌装舍利厨子(当館)、春日曼荼羅絵舍利厨子、密観宝珠嵌装舍利厨子(金剛山寺)、◎諸尊彩絵法華経厨子(清凉院)<写真>、丸机(当館)、●金銅迦陵頻伽文華鬘、●金銅幡頭(以上中尊寺金色院)、◎金銅尾長鳥文透彫華鬘(細見美術財団)、◎金銅種子華鬘(当館)、●金銅宝相華文透彫華籠(神照寺)、金銅柄香炉(当館)、金銅塔鉢形合子(当館)、◎銅製三具足(聖衆来迎寺)、◎螺鈿玳瑁唐草合子(当麻寺)、王子形水瓶(当館)、仙蓋形水瓶(当館)、布薩水瓶、金銅盤(当館)、●金銅密教法具(厳島神社)、◎一面器(西大寺)、◎金銅五鈷四天王鈴(弥谷寺)、◎金銅種子五鈷鈴、金銅五鈷三昧耶鈴、◎十二尊鏡像(以上細見美術財団)、聖観音懸仏(当館)</p>		<p>考 古</p> <p>特別陳列 「経塚出土陶磁展3 関東・北陸地方に埋納されたやきもの」 1月4日(土)～2月3日(日)</p>  <p>銅経筒 <和歌山県・粉河経塚遺物> (当館)</p> <p>＜2月4日(火)～ ＞</p> <p>和歌山・粉河経塚遺物一括<写真><経筒1口、陶製外筒1口、紙本墨書法華経8巻のうち2巻>(当館)、経塚遺物一括<銅経筒1口、陶製外筒断片一括、紙本墨書無量義経一括のうち、菊花双鳥鏡1面、青白磁合子1合、太刀断片一括>(当館)</p>	

洋の東西—奇遇について考えること

学芸課長 河原 由雄

昭和50年の10・11月の2ヶ月、文部省在外研修員派遣によって、「海外美術館における敦煌及び中央アジア美術品の調査研究」なるテーマで、バンコック(タイ)を振り出しに、カルカット(インド)、ニューデリー(同)、カラチ(パキスタン)、タキシラ(同)、ペシャワール(同)、スワート(同)、ハグダ(アフガニスタン)、カブール(同)、バーミヤン(同)、タシケント(旧ソ連邦)、プハラ(同)、サマルカンド(同)、ドシャンベ(同)、モスコウ(同)、レニングラード(同)、ストックホルム(スウェーデン)、コペンハーゲン(デンマーク)、アムステルダム(オランダ)、ブラッセル(オランダ)、ロンドン(英)、パリ(仏)、ベルリン・ウエスト(西独)、ベルリン・イースト(東独)、チューリッヒ(スイス)、ローマ(伊)、テヘラン(イラン)の各地美術館や大学等の研究施設、遺跡・遺構を訪れ、また数多くの各国研究者との交歓と交流を深め、このことは有形・無形的に私にとってかけがえのない財産となった。海外渡航は昭和41年、ニューデリー国博において、S. A. スタイン収集の当該資料を重点調査して以来、2度目の機会であったが、それでも2度目の体験は、対人面



昭和62年8月12日、中国・山西大学 歓迎宴
向かって左より小野勝年先生、小生、山西大学長(名前失念)、
ウィットフィールド教授

においても、洋の東西感覚の違いを身近に教えてくれてまこと貴重であった。例えば、人を訪問する際、ロシア以東の各地では約束なしの突然の面会に対してもいたって鷹揚で、たとえ訪問相手が不在の時でも替りに誰かが応対してくれるといった融通性があったが、北欧から欧州に至ると既知と未知とを問わず、事前のアポイントメントなしにはめったに面会も叶わないといった窮屈さで、われわれにとっては「何と水臭いことか」と慨嘆する場面にしばしば遭遇した。なかでも11月の半ば、ロンドンの大英博物館で、同館中国美術担当のR. ウィットフィールド氏(現ロンドン大学教授)の好意で、スタイン収集品を調査させてもらった時のこと。一夕、食事を共にしたい

と誘ったところ言下に「突然の申入れははなはだ困る」と断られ、鼻白む思いでほどなくロンドンを去ったのであった。このことは農耕を精神風土とする東洋の世界と、牧畜生活に基盤を置くヨーロッパ世界との違いであって、農耕生活にとって一日、二日は何のことはない、せいぜい雑草が伸びる程度のことだが、牧畜生活にとっては一瞬の油断と突然の予定変更は、家畜が逃げ出す、家畜が飢死するなどの深刻な事態を招く。まあこのように割り切って、ほどなくベルリン(西)のダーレムでル・コック収集を調べていた時、オイロッパーセンター近くのガード下の安酒場で、偶然、別れてもないウィットフィールド氏に再会した。飲み交すうち、上記疑問に触れたところ、ウィットフィールド氏の本音はご一緒しなかったのだが、まわりの人達の眼があるのということをやっと欧州人一般の牧畜生活的な精神構造を理解することができた。

とはいえベルリンでのウィットフィールド氏との出会いはまこと奇遇としかいいようがない。日時、場所を綿密に打合せていてもこううまくゆく筈がない。かれこれ奇遇について因縁めいた想いをいだいていたところ、昭和62年の8月、中国山西省の太原でまたまたウィットフィールド氏に出会うこととなった。話しの順序はこうである。

太原にある山西大学が「歴代名画記」の学術討論会を開催した。太原といえば文殊菩薩の霊地として日本にも古くより知られた五台山、また中国浄土教の発生地、玄中寺が近郊にあり、これらの見学を楽しみに、討論会の内容も、参加者が誰かも事前にわからないまま、当館先輩の故小野勝年先生と一緒に出掛けたのであった。北京からは夜行列車で太原にゆくつもりであったが、小野先生の体調の都合もあり、予定を変更し、やっと太原経由、西安行きのプロペラ機に乗り込むことができた。荒漠とした太原空港に降り立ったのはわれわれ二人といま一人の日本人だけであったが、待合室のあたりに「河原先生歓迎」と書いたプラカードを掲げた中国人が2、3名いるのが眼についた。小野先生ともどもてっきり山西大学からの出迎えかと錯覚したのであったが、実はいま一人の日本人の出迎えであることがわかり、電話帳をくってみてもあまり多くもない同姓者が時刻、場所を同じくしてめぐり合せたことの不思議さにまず一驚したのであった。かれこれするうち汽車駅に迎えに行っていた山西大学の教授達が空港にかけつけ、海外からの参加者はわれわれ2名と英国人が1名であると告げたが、それがなんと上記ウィットフィールド氏であることにまたまたの驚きをかくしきれなかった。会期中の一夜(山西大学には暗幕の用意がないので)、スライドを併用して小野先生は「文殊菩薩と五台山」、私は「観無量寿経変相について」、ウィットフィールド氏は「顧愷之筆女史箴図について」なる基調講演を開陳したが、なかでも五台山文殊の瑞像縁起や靈異譚に触れる小野先生の話しは大変面白く、ひるがえって縁起とは因縁生起の謂であり、因縁とは一見、無脈絡にみえる因と果がその実、密接なつながりを持ち、果が因となり、さらに果を産むという変幻自在なものなのであろう。かねてより日本の縁起絵巻に関心を抱いていた私にとって、奇蹟としかいいようがないウィットフィールド氏との再度にわたる出会いや、太原空港における同姓者とのめぐり合せもこのような東洋的思考に基づく因縁説で解釈したい想いがいまなおしきりである。

新春講座

1月15日(祝) 「生涯学習と博物館」

館長 内田 弘保

午後1時30分より、新館にて。なお、この日は無料観覧日となっています。

ギャラリートーク

1月8日(水) 「関東・北陸の経塚出土陶器」

考古室長 井口 喜晴

2月12日(水) 「涅槃図」

美術室長 梶谷 亮治

3月12日(水) 「二月堂とお水取り」

学芸課長 河原 由雄

午後2時より、陳列室で開催。入館者は自由に聴講できます。

奈良国立博物館友の会 平成9年度会員募集

平成9年度の友の会会員を募集いたします。会員は、東京・京都・奈良の国立博物館の平常展・常設展が無料観覧できます（ただし特別展等は1回限り無料）。また当館発行の展覧会目録が割引購入できるなどの特典があります。

〈会費〉 一般1,700円、学生1,100円（予定）

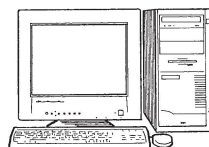
〈申込方法〉 申し込みはすべて郵送で、3月3日から3月7日までの消印のあるもののみ有効となります。所定の申込用紙に必要事項を記入の上、会費分の普通為替と返信用封筒（80円切手貼付、宛名明記のこと）を同封して、簡易書留でお申し込みください。

詳しい募集要項および申込用紙は返信用封筒（80円切手貼付、宛名明記のこと）を同封の上、〒630 奈良市登大路町50 奈良国立博物館 友の会係 まで御請求ください。

ホームページ開設のお知らせ

インターネットによるホームページを開設しています。
ぜひ一度、のぞいてみてください。

〈アドレス〉 <http://www.narahaku.go.jp/>



開館時間 午前9時より午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

休館日 月曜日 ただし2月3日(月)は開館
年末年始 12月26日(木)～1月3日(金)

観覧料金 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料

平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	400	130	70
	団体	200	70	40

（団体は責任者が引率する20名様以上。）

特別陳列「経塚出土陶磁展3」「東大寺二月堂とお水取り」は上記料金で観覧できます。

無料観覧日 1月15日(祝) 〈若草山山焼き〉
2月3日(月) 〈春日大社万燈籠〉
3月12日(水) 〈お水取り〉

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒（80円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331 **奈良国立博物館**